

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	2単位	学年	1学年
使用教科書	日本文教出版『高校生の美術1』						
副教材等	なし						

1 学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方、考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の美術や芸術文化と幅広く関わる資質、能力を育成することを目指す。美術作品などに関する鑑賞とともに、美術の働きや美術文化に関して理解を深める。生涯にわたり美術を愛好する心情や豊かな感性を育む。

2 指導の重点

- ① 本校の位置する美しい自然や地域の文化財、文化施設を活用しながら美術の幅広い創作活動を行う。
- ② 絵画、彫刻、デザイン、建築、映像メディア表現を学習する。また、美術史を学び、理解を深める。
- ③ 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、創造的に表すことを目指す。
- ④ 造形的な良さや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めることを目指す。
- ⑤ 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身につけ、意図に応じて表現方法を創意工夫、表している。	造形的な良さや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関り主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

4 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。			
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価方法	以上の観点を踏まえ、表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、作品を通して心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、見方や感じ方を深め、表現や鑑賞の創造活動に主体的に取り組もうとしている。課題の内容、提出状況、授業の取り組みなどから、総合的に評価します。
	内容のまとめりに、各観点 「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」 で評価します。		

5 課題・提出物等

- ・課題作品を提出する。
- ・授業内での課題の取り組みを記録する。
- ・鑑賞の記録を提出する。

6 学習アドバイス

美術を通して取り組む表現と鑑賞の創造活動は、人間らしい感動や生き方を認識していくことにつながります。寛容と理解力を持って、広く芸術・文化を学び、優れた感性を身につけていくことが大切です。（担当：水落 なおみ）

7 学習計画

月	単元名	授業時数 と領域	教材名	学習活動（指導内容）	評価の 観点	評価方法
4	オリエンテーション	2	「美術とは何か」	高校生の美術の学習イメージを持ち、美術の学びの意味や広がりについて考える。	c	レポート 確認
	見る 感じ取る 考える 表す	2	「身近な物を描く」	身近なものの特徴や美しさなどを基に、形や色彩、質感などの効果を考え、構想を練ったり、鑑賞したりする。	a、b、 c	作品確認
5	人物画、静物画、風景画他の表現方法	2	「視点と表し方」 絵画の魅力 を考える	複数の視点から見た画面を組み合わせた作品の表現の意図や工夫について考え、鑑賞する。	b、c	取り組み
	「自己や他者の内面に触れて」	4	「人物を描く」	自己の内面を見つめ、構図や表情などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、構図や表情、色彩の効果、全体のイメージなどを捉える。生命観の感じられる生き生きとした描写を目指す。	a、b、 c	作品確認
6 7	静物画の魅力 様々な技法	16	「静物画」 作品制作 色彩学	牛頭骨、植物、器物、果物、楽器、布他、モチーフを構成し、静物画における主題や構図について理解を促す。 観察の幅を広げ美の所在発見への認識を深める。 多様な表現方法の工夫をする。 水彩画、洋画、日本画、アクリル画等の絵の具の技法を学ぶ。 ○グレース技法 ○ウェット・イン・ウェット技法 ○ウェット・オーバー・ドライ技法	a、b、 c	作品提出 確認
8	「世界の至宝」探求	2	世界の美術館 博物館の鑑賞	ルーブル美術館、オルセー美術館他をBDで作品鑑賞する。世界の芸術文化を探求し理解を深める。	c	発表の様子
9	「作家と作品」 研究	6	世界の巨匠 達の作品鑑賞	作家と作品、その時代背景を考察する。美術の働きや芸術の動向などグループで意見をまとめ全体ディスカッションを試みる。 民族、国家、宗教の壁を越え、互いの芸術、文化を尊重する精神を育成する。	c	発表の様子

10 11	世界の芸術文化と歴史	16	世界遺産の探求	世界の芸術文化を学び日本、諸外国の文化、伝統を考察し豊かな心を養い創作する。 世界の美術史年表を学び理解を深める。 多分野にわたり様々な芸術を総合的に捉える。 総合芸術の社会での役割、国際間の文化交流を理解する。	a、b、 c	作品提出 確認
12	日本の美術の特質	4	日本の美術 日本の美学	日本の美術、彫刻、建築の表現の特質を探求する。美術文化の継承と創造について考える。 日本の美術の独自の屏風や掛け軸、絵巻などの良さや美しさ、金雲や空間、構図、色彩などの効果、全体のイメージや作風、様式を捉え美意識や自然観、制作の知恵などを理解する。	b、c	理解度
1	デザインの世界の広がり デザインと人間工学	4	「色彩、美の秩序、文字の基本」	環境問題に対する注意喚起を目的としたポスターを構想、表現するために、色彩、造形の秩序、構成の要素、構図、文字の基本などについて学ぶ。 テーマに沿って問題提起→企画→演出を促す。比率（黄金比、フィボナッチの数列、ベルの数列など）の利用を理解する。 人間の知性と敏感に響き合うウィットに富んだ制作を目指す。	a、c	課題確認
2	映像メディア表現	4	「映像に包まれて」	映像表現の特質や表現効果、投影の工夫などを感じ取り、創造的な工夫について考えるとともに、光や動きを生かした映像の効果、美しさや全体のイメージなどを捉える。	c	取り組み
3	オリエンテーション	2	これからの私と美術	生活と美術の関わりに目を向け、これからの生活の中で、美術を通して学んだことをどのように生かすことができるのか考える。	c	発表の様子

計64時間（55分授業）